慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	露西亜に於ける労働組合運動（三、完）
Sub Title	
Author	町田, 義一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.9 (1922. 9) ,p.1316(112)- 1329(125)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220901-0112

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

濟的隷屬と、男子が女子に對して生活資料を給すと云ふ假定の上に立脚してゐる。この基礎は社會的經濟的自由の確立された場合には消滅するだらう。さうして子女を私有財產視することもなくなる。すべての子女は、この兩親の如何に拘らず、すべての市民としての利益を享樂することが出來る。かくて家族制度は、各人の傾向と愛の上に基礎を置き、兩當事者間の意志によつて變更して得る結合體となる。即ち女子による男子の壓迫も、男子による女子の壓迫も、新社會出現の後には廢止せらるからである。(Socialism, its Growth and Outcome. pp. 220-226)（未完）

露西亞に於ける勞働組合運動（三、完）

町田義一郎

（六）

又獨立論の最も重大なる問題は國民經濟の管理機關に對する勞働組合の關係であつた。彼等は組合が產業の組織に參加する事は必要なるも有ゆる責任を回避し又之に携るに當つても組合の職分は勞働の保護にあると爲した。然るに事實は之に反し十月革命後組合は自ら進んで此責任を負ひ有ゆる產業の管理と經營機關の組織に携つた。勞働組合は勞働管理の布告の發せらると共に各地方に於ける組織と管理の全仕事を結合する全國勞働管理委員會を設置したが更に一層廣汎に涉る機關の必要を感じ之を國民經濟最高委員會に變更した。此最高委員會は勞働組合と Soviet 政府とによつて組織され、國有產業を管理する若干の中央機關に分たれた。そして又此中央機關が亦最高委員會の報行委員（Presidium）も組合のそれとの協同によつて設けられた。

勞働組合は產業の經營を僭奪しやうとはしない。それは生產の唯一の組織者ではない。全國有事業は『Soviets 組織に加はる事によつて漸次 Soviet 經濟制度の根本的基礎と變ずるに至る』（露西亞共產黨第九回大會決議）組合の代表者を基礎とした國家諸機關によつて經營される。

生產を組織するに當つて露西亞勞働組合が爲した凡ては Soviets と協同で機關を創設するにあつた。勞働組合は勞銀の國家的調整と勞働の標準付(standardisation)を排他的に行ひ、勞働人民委員會(Commissariat of Labour 人民委員會の一部門で普通なら勞働省ともいふ可きもの）及びその地方部門(官省)は補助機關たるに過ぎなかつた。

二月革命後勞資の協調を計る爲め設けられた勞働省は「政府の」中立を支持し兩階級の反抗を招くに至つたが、勞働組合によつて選出される階級的機關たる勞働人民委員會は妥協を求めず、勞働者の有ゆる要求を實行する爲め政府の强制權を行使した。又屢々組合の職分を行ひ時に之と相談なく活動し兩者の間に職分上重復を生ずるに至つたので一九一八年四月の第四回勞働組合會議は『勞働組合の一層上の機關（大會及び評議會その他）により可決された主義に關する有ゆる決議は勞働人民委員會に對して羈束力を有す。勞働及び生產の狀態に影響する凡ての立法提案並に特別の强制規則は勞働組合の責任ある機關(即全國及び地方勞働組合評議會)により豫め承認を經ねばならぬ。之が實現に向ふ第一歩として全國及び地方勞働組合評議會は一般階級的政策を行ひ又實際手段を調和する爲めの責任機關として勞働人民委員會の上に合議會(Collegiate boards)を組織す』と決議し、更に第

二回大會は組合の評議會大會全露中央委員會等の決議を實行する勞働人民委員會に對する拘束力を確認し『勞働人民委員部により發布されし勞働條件に影響する有ゆる强制規則は豫め全露勞働組合委員會の總會により承認されねばならぬ』と決議した。

二ヶ年半の經驗は勞働人民委員會の制限は寧ろ煩雜であるといふ事を證明した。併し大體兩者の分業は行はれ、全勞銀政策、即勞銀の國家的調整、勞働の標準付、勞働訓練の問題その他は排他的に勞働組合が執掌し勞働人民委員部は組合の決定を批准するばかりである。勞働の保護と勞働の分配は勞働人民委員會が實行し組合はその代表者を通じて之等部門を管理した。

第三回組合大會は『勞働組合と勞働の地方部門との間の一層密接な接觸の必要及び中央並に地方に於ける勞働部門の現在の活動に對する勞働組合の管理の勢力を增す』意向を明らかにし『勞働人民委員會の凡て責任ある執行者は勞働組合の大會又は評議會で選ばれねばならぬ。勞働に影響する有ゆる理論問題の豫備考察が、何等かの決定を見る前に、勞働組合の執行委員（或は總會）勞働部門の長官（或は會議）の合同會議に於て行はれねばならぬ』と宣言した。

而して Lozovzky に依れば『勞銀の決定及び勞働の標準付は全く勞働組合の職分であるから他の機關がその決定を批准するといふは不合理』であつて斯かる對立は廢されねばならぬ。そして彼の未來觀に依れば委員會が益々組合に從屬するに及び結局名實共に勞働人民委員會は廢止され、勞働の組織、保護、及び標準付の全任務は全露勞働組合中央委員會に集中される樣になり、『唯だ二つの中央全國的機關が存するのみとなるであらう。一はその任務を勞働の組織に集中する全露勞働組合中央委員會と他は排他的に生產の組織を行ふ國民經濟最評議員會である。併し勞働は生產の根本的要因であるから次ぎの階段は全露勞働組合中央委員會と國民經濟最高評議員會との融合による全經濟機關の單一化、と國有事業の經營の爲めのそれぞれの主務及び中央委員會を有する產業的組合とに導くであらう。何時之が實現されるか未だ不明なるも之が發達の趨勢であり又社會主義の經濟的構成の確たる論理である。』

露西亞は有ゆる種類の勞銀が全國的制度に基いて制定される世界唯一の國家である。併し二月革命前には有力な大勞働組合が存在しなかつたので團體的雇傭契約の樣なものは行はれず、又同盟罷工の如きも偶發的であつたので、勞働階級は勞銀率の決定に國體的勢力を及ぼし得なかつた。又勞働統計その他勞働狀態に關する報告材料にも乏しく爲めに勞働組合は全國的勞銀制度を規定するに當つて非常な困難を感じた。その上戰爭の爲めに國民經濟組織は崩壞し、必需品の物價の高騰、貨幣單位の不確實、及び食糧その他物資の缺乏等と引續いての革命騷ぎが確固たる標準の建設を妨げ、內外の反革命に對抗せねばならぬ勞働階級の努力が凡ての可能性を勞働組合から奪ひ去つた。

勞銀率その他は勞働組合によつて起草され統一的勞銀政策設定の爲めに全露勞働組合中央委員會の勞働部に交付しそこで勞銀率は作成調印され、それから勞働人民委員會によつて批准される。如何なる命令も當該勞働組合に關係なく勞銀率を制定し或は廢止するを得ない。勞銀の國家的調整は報酬の惡い種類の勞働を引上げ、勞銀を、國內の經濟狀態の變動に調和させねはならぬのみでなく、第一に勞銀政策を最必需品の

勞働者の供給と結付ける、即勞銀の自然化に向つて努めなければならず、第二には得られる成果に應じて勞銀を決定する、即勞働の嚴密な標準付を採用しなければならず、第三に工場内に於ける勞働の生産力を增加する爲めの有效な要具とならねばならぬ。

勞働組合は十月革命に至るまでに勞銀決定の點に於て大いに活躍し、全國産業及び國家行政の全部門に渉る有ゆる種々の勞働を研究し分類し各組合はその職業特有の狀態、有害の程度を考究し、中央並に地方標準部を創設し勞働の技術の等級を定め、一般勞銀計畫中に有ゆる肉體的精神的勞銀者を包括し、生産奬勵の爲めの支給制度の作成その他を實現した。併し勞働組合之等問題の解決には猶前途遼遠であつた。如何となれば全國的制度で勞銀率及び勞働の標準を決する問題の解決は社會勞働の組織即社會主義的生産を組織する事であつたから。

先づ直接の最も複雜な問題は勞働者が購買に要する貨幣報酬の廢止といふ事である。生産不足の爲め標準以上の物資の給與は今日まで時間外勞働に對する奬勵方法として行はれた。それ故勞銀問題は何れの組合大會に於ても食糧問題と關連してゐた。第三回大會に於ては物資供給部と勞銀部は共に活動し實際計畫を講じそれにより組合は勞働者に最必需品を給する事が出來た。勞働者に物資を供給するといふ事は生産能力增進の最良手段であるので勞働組合はSoviet政府と協同で之が考慮を以て國家の經濟的復興の最大要件の一と爲した。勿論此經濟的回復はそれ自身目的ではなく目的に對する手段である。その目的は確實な經濟的基礎の上にのみ建設され得る社會主義である。

（七）

露西亞の勞働組合運動が保守思想偏見、因襲等に煩はされる事のなかつたのはその發生以來未だ幾何をも經過せず而も革命の子であつたからである。それは革命と共に生長發達し反革命勝利の時期には不進に陷つた。又一九〇五年の發生當時から職業別でなく産業別によつて組織され第三回會議は『同一工場内及び類似の職業に從事する出來るだけ多數の勞働者の共通團體及び共通の指導の組織中に統一する事』を主張し、第一回大會は産業別組合建設の必要を確認し、第二回大會に至つては産業的組合の何物たるかを說きその特徵を揭げた。（一）その從事する特殊の職分には關係なく一定の工場の全勞働者と被傭者を結合す、（八）生産するのでなく生産者に手傳ふ者並に凡ての一時的及び不定期的勞働者はその産業的組合の一員となる。此二特徵を以て見るも露西亞勞働組合の根本主義が從事する仕事の如何を問はず一工場に一組合なる事は明かである。

一九二〇年一月には三十三の全國的に集中した組合が存し、第三回大會後には更に二十三組合に綜括された。即ち（一）醫藥及び衛生勤務の被傭者と勞働者、（二）運輸勞働者、（三）鑛夫、（四）木工、（五）土地及び森林勞働者、（六）藝術的製作者、（七）公衆の榮養及び居住に關する勞働者、（八）皮革工、（九）金屬工、（十）都市事業の勞働者と被傭者、（十一）教育及び社會主義的教化に從事する勞働者、（十二）公共通信事業の從業員、（十三）印刷工、（十四）製紙業勞働者、（十五）食糧品製造業勞働者、（十六）大工、（十七）製糖業勞働者、（十八）Soviets 從業者、（十九）煙草勞働者、（二十）紡織工、（二十一）化學工業勞働者、（二十二）裁縫勞働者、（二十三）稅務、財政及び管理諸部門の被傭者。

一見斯かる小數組合に全產業の有ゆる高級下級、熟練不熟練一切の從業者を包括する事は不可能の樣であるが Lozovzky の言に從へば『若しも一團體或は一職業の利益でなく全體の利益即生產の利益――而して生產は確實な基礎に立つ社會主義社會建設の手段である、――の見地から出發するならば組合の數は吾々が設けた樣な最小限に類別され得る』と。

而して之等二十三組合は同一主義によつて組成されその單位を爲すは工場委員會である。一定の縣(uyesd)內の全工場委員會が組合支部を、省或は州の全支部が省(gubenia)部門を構成し、凡ての工場委員會、支部及び部門はそれぞれの全露勞働組合の機關であつて組合員負擔額の半分は組合の中央委員會の基金となる。（一九二〇年五月一日以降組合費は勞銀の二分）之等の機關に於て小地方では書記(secretariats)が凡ての勞働者と被傭者とを結合し、縣に於ては組合の事務局(bureaux)が支部からの代表者によつて設けられ、省では省部門の代表者から勞働組合評議會が編制され、又中央に於ては全露大會によつて選ばれた執行委員と五萬名每に一名の割合の全國勞働組合からの代表者を以て全露勞働組合中央委員會が組織される。

勞働組合運動の集中と發達は次の表の如くである。

勞働組合評議會

		部門及支部	全國的團體
第三回會議	一、一二〇、八一九	一、四七五、四二九	―
第一回大會	一、八八八、三五三	二、五三二、〇〇〇	一九
第二回大會	二、〇三七、七〇〇	三、六三八、八一二	三〇
第三回大會	三、九八〇、四三五	四、三二六、〇〇〇	三二

註　評議會と支部との數の相異は評議會に加はざりしものあるによる。

猶現在の露西亞勞働組合を理解するには次の諸點に留意する事が必要である。（一）露西亞には黃色組合存せず、（二）凡ての組合は全露勞働組合中央委員會に加はり、之等の團體のみが勞働或は產業的組合と稱する權利を有す、（三）有識者技師等の個個の組合は存在せず凡て之等の者は各產業的組合に屬す。若し欲するなら彼等は學術的技術的の團體を造るを得るが組合の權利を享有する事が出來ぬ、（四）craft guilds が存在せぬ。

各多種類の精神的並に肉體的勞働者を包容する斯かる廣汎な產業的組合の創設は職業的因襲殊に技師その他の有識者の自負心と狹量の爲めに幾分反抗を蒙つたが多くの咒物と因襲とは革命の猛火の中に灰燼と歸して終つた。

勞働組合は勞働者及び被傭者の政治的又宗教的信念の差別なく包容し政黨團體ではないが、決して『中立』或は非政治的ではない。勞働組合は常に社會主義的であつた。社會民主黨は勞働組合發生の際に產婆役を勤め又搖籠ともなつて之を育てあげたのであるから初めから自由主義といふ事は問題ではなく、機會主義的社會主義と革命的それ即 Menishevism と Bolshevism の何れを採るかの問題であつた。併し多數勞働組合は十月革命と運命を共にし勞働組合運動は全體として露西亞共產黨の旗下に加はりその指圖に從つて行動した。

非政黨的な勞働組合運動が一定の政黨の指揮の下に行動するといふは矛盾の樣であるが Lozovzky の辯明によれば『矛盾ではない。如何となれば非政黨は非政治的を意味するのではなくそして勞働組合が政治鬪爭に携はる範圍では――携はらなければ何事も出來ない、――或政黨の政綱の下に立ち又之を承認して進まなければならぬし、又政治鬪爭は階級鬪爭であり而して多數の無產者を包含する勞働組合は階級鬪爭殊に社會革命の時期に際して權力を獲得せんす

る勞働階級の直接の闘爭の埒外に立つ事は出來ぬから――露西亞の勞働組合は單に政治闘爭に關係したのみでなく勞働階級の利益を他よりも多く聲明した黨派即ち bolshevik party との協調を繰返し宣言した』

勿論如何なる大會も評議會も組合が露西亞共産黨の綱領を承認すべき事を要求しなかつたが彼等は一定の革命的行動の綱領を作成し勞働組合運動の埒内に止まらんと欲する組合は之を實行する事を餘儀なくされた。第二回大會は『政治的或は宗教的信念に關係なく勞働者及び被傭者を組合に結合し、露西亞勞働組合運動は國際的階級闘爭場裡に立つて「中立」の觀念を斷然非と爲し、又「無産階級獨裁の手段による社會主義實現の爲めの革命的階級闘爭を承認する」事を全露的組織に加はる各組合の必須條件と爲す』との決議を公にした。之は單に既定の事實を形式的に確認したまでゝあつた。階級闘爭に際しては勞働組合とそれが主なる支持者である無産階級獨裁との間には有機的關係が存せざるを得ない。此決議に附加された組合取締の規則第一條は『勞働者大衆を社會主義的建設事業に組織し又誘引し、勞働組合は……無産階級獨裁の手段による社會主義の實現をその目的と爲す』と規定した。

而して第三回大會に於ては共産黨と組合との關係は殊に顯著になり先づ共産黨の主權掌握を承認し、その第一決議中に『全體として勞働組合は、無産階級獨裁による共産主義實現の綱領の上に立ち、露西亞共産黨によつて無産階級革命に於ける彼等の活動に必然引入れられた』事を斷言し、Lenin 提出の報告に對して『Soviet 露西亞の勞働階級及び全勞働者の眞の利益を表明する唯一の黨派たる共産黨の指導の下にて勞働組合を通じて行ふ共産主義的建設の事業に勞働者大衆を誘引する努力を增す』事を決議し、又組織に關して『組織は目的ではなく、目的に對する手段である。産業上に組織された無産階級の目的は共産主義である、そして此目的に到る道は社會革命と無産階級獨裁である』と述べた。更に第九回露西亞共産黨大會の決議の實現は『結局資本主義に對する無産階級の勝利を確實にする』であらうと想定して此大會の經濟政策承認の決議を公にした。

勞働組合運動に對する Bolsheviks の勢力の增加は次の表の如くである。

	代表者	ボルシエビキーと贊成者	%
第三回會議	二二〇	八〇	三六・四
長主會議	一一七	六九	五八
第一回大會	四一六	二七三	六五・六
第二回大會	七四八	四四九 註	六〇
第三回大會	一、二二九	九四九	六八・一

註　此數は實際出席者數より少ない。分會の記錄によると贊議權所有の代表者が入れて五〇〇であつた。

猶一九一九年十二月には共産黨に Socialist International Labour Party（第二回大會には五十名の代表者を出し、殊に皮革工と鐵道從業員組合に勢力があつた）が加はつた。

そして斯かる共産黨の非常な影響は次の事實から起つた。露西亞無産階級は經濟運動を政治運動から分離せず又子供らしい『中立』に煩はされる事が決してなく、そして指導者達は一九二〇年三月末に第九回共産黨大會によつて定められた『政治運動は經濟運動の最も集中した表現であつて、その綜合と最後の完成である。……勞働組合は形式上非政黨であつて實際は共産主義的になり、そして共産主義の政策を實行する限りに於てのみ無産階級獨裁と社會主義的建

設は保證される』といふ公準に全く同意した。

（八）

露西亞勞働組合運動は社會主義の勝利は國際的にのみ可能であつて鬪爭的な國際無產階級の組織を前提とするものである事を認める、それ故、國際聯盟の勞働局を pocket labour capitalist international 或は『國際聯盟の溫室で栽培された花束』の様なものと爲し、Lozovky は嘲笑して云ふ。『國際聯盟の戸口の邊りをうろついてそれの走り使をする元と勞働階級上りの之等紳士は、とゞのつまり空馬鹿だ。吾々は之等紳士と何んの關係もない。國際聯盟と、之に加はる凡ては社會主義の危險な敵である。』

又國際勞働組合聯盟は Soviet 露西亞に對し贊否兩組合の結合であつて、社會革命、無產階級獨裁、直接行動、民衆の革命鬪爭に對する態度は不明であり又國際的の反對運動に對抗して爲す所が有る譯でもなく、唯勞働局とは友誼的關係にある事は明かなばかりである。國際勞働組合聯盟の副議長 Jonhaux と秘書役 Audegeest は勞働局の委員であるので『此事は國際勞働組合聯盟が腐敗しつゝある國際聯盟と共に腐爛する屍である事は示すに充分である』と Lozovzky は云ふ。

而して露西亞勞働組合自身は、社會革命と無產階級獨裁の政綱の上に立ちそして露西亞共產黨の旗下にあつて、早く第三インタナモヨナルの不可分的部分となつてゐた第三回大會は『國際無產階級の戰鬪は資本主義の改良の爲めではなくその廢止の爲めに行はれる。此革命鬪爭に於て勞働階級の革命的根本義を自覺せる全階級は愈々決然として世界無產者革命の權化たる組織としての第三インタナショナルに糾合す』と決議した。そして特別の國際勞働組合組織を造る事は勞力の分散か、さもなくば國際勞働組合聯盟の二の舞をするに過ぎぬから凡ての無產階級勞働組合は第三インタナショナルに加はり勞働組合部或は書記局を組織しなければならぬものと爲し、第三回大會は『第三インタナショナルに加はり、そして凡ての國の革命的階級の組合にその例に倣はん事を求む』と可決した。

革命以來數年を經過せるのみの露西亞勞働組合には、地方と中央との聯絡の不備、正確な報告統計の欠乏、施設の薄弱、生產機關支配の遲々たる事、勞働の標準付の大して好結果ならざる事、勞銀の國家的調整制度の完全な實行の不可能及び管理困難な小事業の組合の一時的增加等の弱點のある事を承認する Lozovzky は又一面他國の勞働組合の模範たり得るものがあると爲した。『何んとなれは彼等は一の非常な大きな價値を持つてゐる。即それは革命の子であり、創造物である。革命の勝利は勞働組合の勝利であつた。革命の敗亡は勞働組合にとつても敗北であつた。此組合と革命との有機的關係が又勞働組合の弱點の理由と吾々に當面する難問題を理解する鍵を吾々に與へる。』

內亂それから生じた封鎖、經濟的崩壞、幾度もの組合員の動員、從軍、（或都會では組合員の半數に及ぶ）は勞働組合組織に勿論影響した。勞働組合は精確に國民經濟の組織程度を反映する。國民經濟組織の不健全は又勞働組合の不健全である。それ故潰崩期に於ては、露西亞の勞働組合の古い生產關係が偉大な組織の役目を演じ、國家の活動の有する部門（軍事、食糧、衛生、經濟、技術、文化その他）に關係し又主要な法令の制定に干與した。

又露西亞の勞働組合は有產階級との爭鬪に於

て革命的であつたのみでなく勞働組織内の偏見に對する爭にもさうであつた事は十月革命後の罷工問題に就ての根本的修正にも明かであるが又他の例を强制勞働に見る事が出來る。露西亞の經濟生活は破壞され、勞働力の最大集中といふ事が經濟的窮迫から脱する爲の急務であつたので組合は『勞働者は工場に於て勞働の生産標準を高め、生産を改善し反革命に對して汝等が戰つた凡ての勢力と熱心と獻身とを以て働け、何んとなれば露西亞の經濟的微弱は社會革命の滅亡を意味する。』と激勵し又彼等は『勞働の生産力を增加せよ』と叫ぶ事が出來た。何んとなれば彼等自身勞働者であるから。

例へ僅かの勞働力たりとも失はれぬ爲め彼等は强制勞働――勞働の武斷化、即個々の勞働者を全體の利益の爲めに服從させる――を主張した。若し無産者國家が戰線に無數の勞働者を送り得るとしたら、その國家と勞働組合とは之と同樣にその階級の者に對し産業の戰線に於ける犧牲的又强制的勞働を要求する事が出來る。

社會革命の福利が最高法則である、そして若しも個人勞働者或はその團體が强制勞働の義務を免れんとする時には組合は『産業の戰線は露西亞革命の最も重大な戰場である、各市民は勞働軍の兵士である、そして如何なる憐憫も逃走者には示されないだらう』と宣言する。强制勞働は私有財産及び生産と分配手段の廢止期に於ける無産者國家の權利であつて、何人も社會の利益の爲めに一定の勞働を行ふ義務を各人に要求する事を非難する事を得ないであらう。

而して露西亞の勞働組合は勞働組合と分離し或は之に反對して歐洲に於て革命が可能であるといふ勞働組合の拋棄政策を以て民衆勞働の革命的要素から自ら遠かる最も有害且つ反動的政策であると爲し、Lozovzky に『露西亞勞働組合運動の經驗に基いて吾人は諸君、露西亞革命と無産階級獨裁の眞の友人達に告ぐ、「勞働組合の中に行き彼等を説服せよ。然らば諸君は社會主義の爲めに勞働と生産の多數の組織者を得るであらう。」諸君は無産者の經濟組織鞏固のな基礎の上に革命と過渡期の經營を建設しなければならぬ』と説いた。

又 Lozovzky は云ふ、『露西亞の勞働組合は單に舊世界の一層速かな滅亡を助長しつゝあるのみでなく、それに代る新らしい社會主義社會を建設しつゝある。之が露西亞勞働組合の職分と特徴である』と。自分が彼の小著を紹介したのも亦現在他の諸國の勞働組合運動に見ざる此の『職分と特徴』に興味を感じたらに外ならぬ。

（完）

ジェイ・エス・ミルと經濟學の定義（三、完）

榎本鑛治

十一

扨てミルに依れば、自然科學と精神的科學との相違する所は、自然科學が純然たる物質の法則を取扱ふのに對して、精神的科學は人心の法則を取扱ふのに在る。而して經濟學は富を構成する物件の生産に關する法則中、純然たる物質の法則を除外して、其他の人心の法則のみを取扱ふのである。併し人心の法則にのみ依存する現象は、絶無であつて、多くの精神的科學は、自然科學を豫定するのであるから、人心の純粹なる科學を包含する心的科學は、悉く樣々の物質的眞理を無視する譯には行かない。斯くて結